

わがまち紹介



高萩市

持続可能なまちづくりへ
独自の施策を展開

市政運営の手ごたえと 3期目の課題

2018年3月の市長就任以来、市民の皆様から託された重責を胸に刻み、市政運営に取り組んできました。これまで2期8年にわたり、「市民主役のまちづくり」を基本理念に掲げ、市民の声に丁寧に耳を傾けながら各種施策を進めてきた結果、子育て支援の充実、地元企業への支援、企業誘致の推進による雇用の創出、さらには道路や生活基盤の整備などにおいて、一定の手ごたえを感じています。一例として、「高萩市・北茨城市広域ごみ処理施設(高北清掃センター)」は、1期目の2018年11月に北茨城市と基本合意し、2期目の2023年4月に完成してごみの受け入れを開始しました。それに伴い、ごみ処理を民間委託から公営にすることで、大幅な経費削減を実現しています。

一方で、人口減少や少子高齢化の進行、物価高騰など、本市を取り巻く状況は厳しさを増しています。こ

うした時代だからこそ、若い世代が安心して働き、子どもを育てられる環境づくりを進めるとともに、安定した雇用の場を確保するための企業誘致や産業振興に、これまで以上に力を入れていく必要があります。

今年3月から3期目の市政運営がスタートしていますが、これからも市民の皆様と力を合わせ、次の世代に誇れるふるさと高萩を築いてまいります。まずは、これまでの取組をさらに発展させ、持続可能なまちづくりを着実に進めていきます。また今年度は、第6次高萩市総合計画の折り返しとなる後期基本計画のスタートの年でもあります。それに基づき、「医療・福祉・子育て支援の充実」「地域経済と産業の強化」「生活環境の向上」「社会基盤の整備」を推進していきます。具体的には、高齢者や子育て世帯を支える福祉の充実、ICTを活用した教育環境の充実、新たな企業立地の促進や既存産業の高度化による地域産業の活性化、さらには激甚化する災害に備えた防災・減災対策やインフラ整備の強化などに重点を置きます。



高萩市長
大部 勝規 氏

株式会社筑波銀行
北茨城・高萩エリア
磯原支店長
佐藤 洋

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県高萩市です。北茨城・高萩エリア 磯原支店長 佐藤 洋が高萩市長 大部 勝規氏にお話を伺いました。

近年は、単独の自治体だけでは解決が難しい課題も増えています。そのため、近隣自治体との連携を強化し、広域的な視点で地域の活力を高めていくことが重要です。将来に向けたインフラ整備として、都市計画道路3・5・9号安良川赤浜線については、北茨城市へ接続する区間の早期供用開始に向け、国や県に働きかけをしています。併せて、日立市へ至る区間については、将来的な幹線ルートの実業化に向け、県や日立市と引き続き協議をしていきます。

中心市街地の活性化に向けて 高萩駅周辺地区の再整備

中心市街地の活性化は、にぎわい創出と定住促進に直結する重要な課題であり、2025年8月に「高萩駅周辺地区再整備基本構想」を策定しました。交通結節点としての機能向上を図るとともに、市民や来訪者が集い交流できる空間づくりを進め、利便性と魅力を兼ね備えたまちを目指します。

今年度は、同構想を実現するための基本計画の策定に移行しており、地権者や鉄道事業者との調整を本格化させていくことになります。再整備の軸となる5つのゾーン(シンボルゲートゾーン、交流拠点ゾーン、旧街道ルネッサンス(再生)ゾーン、ウェルネスゾーン、スローライフゾーン)を設定し、老朽化した跨線橋の再整備も検討しています。単なる施設整備にとどまらず、民間活力の導入を視野に入れ、創業支援や空き店舗の活用など、ソフト面も含めて実効性のある計画に仕上げていく考えです。

また、市内には老朽化した施設も多く、長寿命化できないものは複合施設として再整備を進めていきます。2024年には中央公民館を廃止して総合福祉センターに機能を移転し、管理費削減につながっています。本市は今後、中心市街地に市役所や学校、各種公共施設などを集約した「コンパクトシティ形成」と、周辺地



高萩駅周辺地区再整備のゾーニング

域と公共交通でつないだ「公共ネットワーク化」を両輪で進めていきます。

少子化での教育環境を検討し 小中一貫教育を導入

今年度の東小学校の新入生は19人ととどまり、本市の少子化は目に見える形で進行しています。そうした現状にあっても、より良い教育環境を確保することは極めて重要です。

そこで本市では、児童生徒数の減少や学校施設の老朽化に対応するため、2022年度より学校再編の検討を進めてきました。2023年3月には「高萩市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」を策定し、本市にふさわしい学校規模等を定めるとともに、小中一貫教育の導入を検討しました。そして2024年3月には実施計画を策定し、施設一体型小中一貫校の校舎建設の検討に入りました。さらに2025年5月に「高萩市義務教育学校施設整備基本構想・基本計画」を策定し、高萩小学校・東小学校・高萩中学校の統合を進めることとしました。これには、津波浸水想定区域内の立地を解消し、児童生徒が安全で快適に学ぶことのできる教育環境を整える目的もあります。

当初は早期の事業着手を予定していましたが、資材価格高騰などの影響により事業費が大幅に膨らんだため、計画の見直しを行いました。今後は国の支援やコスト削減の可能性を見極めながら、事業規模や整備手法を精査した上で段階的な整備を検討します。ただし、将来の校舎建設に備え、候補地周辺の道路整備は先行して進めていきます。

また2022年4月には、第一幼稚園、東幼稚園、高萩保育所の3施設を統合した幼保連携型の「たかはぎ認定こども園」を開園しました。公立こども園は、自治体と連携した専門性の高いサービスを提供しやすいというメリットがあります。厳しい財政状況の中でもサービスの質を低下させることなく、未来を担う子どもたちを育てていきます。

まちの将来につながる 周産期医療体制の確保

本市は保健、医療、福祉の連携により、市民が心身ともに健康な生活を送ることのできる社会を目指しています。市民の安全安心を守る観点から、地域医療体制の確保は必要不可欠です。特に周産期医療体制の確保については、市長就任当初から一貫して力を注いできました。本市の出生者数は2023年が85人、2024年が87人と著しく減少しています。今後、地域の分娩数が一定水準を下回った場合、国や県は医療体制を集約する方向に進むと見込まれます。しかしそれにより市民が非常に大きな影響を受けることになり、「周産

期医療の整った病院があるまちに住みたい」と、人口流出の原因にもなりかねません。そのため将来につながる施策として、医師の確保や医療体制の維持に対する本市独自の支援策を打ち出しています。

加えて、高度化する救急医療に対応するため救急車両の購入をはじめ、医療機関や県・近隣市との連携を強化し、市民が安心して医療を受けられる体制の維持向上に努めています。



地域の周産期医療を担う高萩協同病院

人口減少を抑制するには “働く場所”がキーワード

人口減少や少子高齢化は、国立社会保障・人口問題研究所の分析にあるように、日本全国が直面する問題です。それに対して手をこまねくだけでなく、独自の対策を講じる必要があります。私は“働く場所”がキーワードになると考えています。住みやすいまちで職住近接が実現できることは、働く方々への訴求ポイントとなります。

本市の松久保工業団地と手綱工業団地には、ナショナルブランドの優良企業が多数立地しており、20社で構成する経営協会があります。本市との意見交換会を定期的実施し、互いに連携して地域の若者の雇用促進に取り組んでいます。2年前からは、小・中学生や保護者の皆さんに、工場の視察・研修・意見交換を実施しています。これは、市内の高校を卒業した方が、一旦は東京の大学や水戸市の専門学校などに進学しても、Uターンして働く場所があることを小・中学生のうちから意識してもらおうのが狙いです。このような取り組みを通して、本市の人口減少をできるだけ緩やかにしたいと思っています。

海と山の豊かな自然を生かし アウトドアを満喫できるまち

本市の豊かな自然環境は大きな魅力であり、それを生かしたアウトドア事業の推進は地域活性化の柱の一つとなっています。市の東側は太平洋に面して約7キロメートルにわたり白砂の海岸線が続き、市域の8割以上を占める山林原野には景勝地やキャンプ地が点在し、市内には市民が気軽に訪れることのできる公園があり

ます。これらを融合させて、市民が誇りをもてる観光資源として活用していくことを目指します。

本市を代表する絶景スポットである花貫渓谷については、2023年6月に「花貫渓谷利活用・整備基本構想」を策定しました。秋の紅葉シーズンに観光客が集中し、また通過型の観光が主であるため、今後は年間を通した集客を実現し、長時間滞在して観光消費を拡大する仕組みづくりを進めていきます。花貫ふるさと自然公園をはじめ、小滝沢キャンプ場や汐見滝吊り橋を含む花貫渓谷フィールド、土岳山頂広場やけやき平キャンプ場を含む土岳フィールドにおいて、キャンプ場やレジャー施設の整備・充実を図り、官民連携による持続可能な観光振興に取り組んでいきます。

花貫地区では、観光客にお勧めの新しい名産品として「花貫フルーツほおずき」が栽培されています。ビタミンをはじめとする栄養価が高く、一般的な食用ほおずきと比べ上品な香りと深みのある味わいが特徴です。収穫期には生のほおずきが販売されるほか、加工品のジャムやアイスもあります。

ほかにも、小さなお子さま連れからご年配の方まで親しめる、市民に身近な公園も大切です。さくら宇宙公園は、民間事業者によるイベントが盛況で、これから官民連携でまちを盛り上げていく拠点の一つになると思っています。また、高萩市森林公園(お手まき記念の森)は、芝生広場に展示された彫刻や「たかはぎグリーンミュージアム」など、芸術公園のような趣があります。これらをはじめ、遠出をしなくても近場でゆっくりくつろいだり散歩をしたりできる市内の公園に目を向け、魅力をさらに高めていきます。



花貫フルーツほおずき

筑波銀行に期待すること

筑波銀行さんは地域を支える身近なパートナーであり、日頃より市政に対して深くご理解とご協力をいただき、大変心強く思っております。今後とも、政策実現のため資金面でのご協力に加え、筑波銀行さんがもつネットワークと経験を活用し、様々なご提案をお寄せいただきながら、本市の行政運営をサポートしていただきたいと思います。筑波銀行さんのますますのご発展をご祈念申し上げます。

(取材日:2026年4月10日)



Takahagi Outdoors Enjoy



高萩の

アウトドア・アクティビティ !!

山間部の自然を生かして、初心者向けから上級者向けまで様々なタイプのキャンプ場が揃っています。海、溪流、ダム湖など、多彩な水辺のレジャーも体験可能。大自然を遊び尽くす、魅力のアウトドアフィールドをご紹介します。

はぎビレッジ

茨城県最大のこやま湖(小山ダム)のほとりに、豊かな自然を生かしたアクティビティ施設が集合。グランピング、カヌーなどの自然体験を楽しめます。また、遊びのフィールドとクルマ旅を融合させたオートリゾートでは、ダム湖畔の絶景を眺めながら初心者や女性も安心してキャンプや車中泊ができます。



住所: 茨城県高萩市横川1553

小滝沢キャンプ場

花貫渓谷の上流部に位置し、四季折々の山の自然にふれられるのが魅力。キャンプ場のすぐ下を流れる大小の淵が連なる花貫川は、子どもたちにも人気の水遊びスポットです。汐見滝吊り橋への遊歩道や、気軽にハイキング気分で登山ができる標高約600メートルの土岳への登山口もあります。



*紅葉まつり期間中はキャンプ及びバーベキューでの利用はできません。

住所: 茨城県高萩市大能地内

花貫ふるさと自然公園

春には満開の桜、秋には山を染める紅葉に包まれます。場内には電源サイト、芝生サイト、車中泊可能サイト、森林サイト、管理棟(休憩スペース)があります。近くにある遊歩道からは花貫ダムを望むことができ、周囲には名馬里ヶ淵、花貫渓谷などの豊かな自然が広がっています。



住所: 茨城県高萩市秋山2989-14

高萩ユーフィールド

廃校を利活用し、広大な校庭を取り囲むようにオートキャンプサイトとテントキャンプサイトが配置されています。ドローンの操縦体験ができるほか、貸切バーベキュー、体育館利用、家庭科室レンタル、プール利用、ドッグランなど多彩なプランが思いのまま。定期的なイベントも開催されます。どこか懐かしい風情があり、開放感と星空の美しさが評判を呼んでいます。



住所: 茨城県高萩市下君田682

けやき平キャンプ場

土岳の中腹にあり、太平洋を一望できるキャンプ場です。サイトには芝生が張られ、かまどが設置してあります。土岳山頂までの登山道も整備され、約15分で登ることができます。山頂には360度のパノラマを楽しめる展望台があり、冬季の晴れた早朝など条件が良ければ富士山や日光連山を見ることができます。



住所: 茨城県高萩市中戸川地内

ウォーターアスレチックパーク

青い海と白い砂浜がきれいな高萩海水浴場は、夏には家族連れを中心に多くの海水浴客で賑わい、海の家もオープンします。7月下旬の海開きに合わせて、茨城県内で唯一の“ウォーターアスレチック”を開設。高戸前浜につながる関根川河口の穏やかな水辺で、大人も子どもも夢中になって渚のアドベンチャーを満喫することができます。



住所: 茨城県高萩市高戸633-1